

まち・ひと・しごと創生 上毛町総合戦略 事業評価シート

		整理No.	
部課名	開発交流推進課	記入者名	熊谷豊司

基本目標	1. 安定した雇用を創出する	施策名	(1) 観光資源の創出・整備
施策内容	③新たな観光拠点としての大池公園開発事業		
基本的方向	上毛PA・スマートICに隣接する「大池公園」のゾーンを町の顔と位置づけ、地域雇用の創出・定住人口増加のための起爆剤とします。そのために、基本構想の基本的な考え方である①イベント利用に頼らない、日常利用を重視したデザイン、②さりげなさの中に様々な視線が交差する劇場的構成、③現況の風景を生かし、自然素材を主体とした上質の景観設計の3点に基づき、デザインコンセプトを「こうげの『光源』づくり 水辺に連鎖する、くつろぎとおもてなしの回遊空間」に設定し、基本計画や実施設計にそって、新たな観光の拠点となるよう大池公園の開発を行います。		
具体的な事業	地域の活性化と新たな観光拠点づくりを目的とした施設整備の推進(大池公園開発事業)		
事業の概要	上毛PA・SICに隣接する「大池公園」のゾーンを町の顔と位置づけ、地域雇用の創出・定住人口の増加のための起爆剤と考えている。その為には、高速道路利用者が町を通過するだけでなく、町を訪れてもらう必要がある。そこで住民憩いの場としての機能と町外の方を癒せる目的地となるような整備を行う。		

評価 (Check)						
KPI・数値目標	評価指標	数値目標	➡	現状	目標達成の可能性	
	来訪者入込数			H31年度	H29.3月 末日 時点	可
				300000人	3501人	不可
阻害要因・奏効した点・反省点等	<ul style="list-style-type: none"> ・大池公園の整備方針を①遊歩道再整備事業エリア(第1段階)、②高速道路連結部整備事業エリア(第2段階)、③検討整備事業エリア(第3段階)の3段階に整理し、整備を行っていく事にした。第2段階以降の整備は、住民に説明し理解を得て、かつ議会の同意を得ながら推進する。 ・地方創生加速化交付金を活用し「スマートインターと一体化した地域拠点づくり事業」を実施した。住民ワークショップ等を行い、観光拠点として必要な施設整備の内容等を検討し「スマートインターと一体化した地域拠点づくり事業計画」を策定した。 ・開発に当たり、連結申請、保安林解除及び開発行為申請等、各種法律に基づく手続きがあり長期計画となる。 					

改善点・目標等 (Action)
<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度までは、「高速道路との連結」「観光拠点の公設民営」を基本に施設整備の検討を行ってきたが、施設整備に係る町負担の軽減を図るため、平成29年度以降は「観光拠点の民設民営」を基本に考え、民間店舗の誘致による大池公園の目的地化を図る。 ・世界一のパティシエ等集客力のある民間企業の誘致を推進する。 ・数値目標 平成34年3月 来訪者入込数 300,000人

(紙面が足りない場合、別票を添付のこと)

まち・ひと・しごと創生 上毛町総合戦略 事業評価シート

			整理No.	
部課名	開発交流推進課	記入者名	熊谷豊司	

基本目標	1. 安定した雇用を創出する	施策名	(1) 観光資源の創出・整備	
施策内容	④観光資源をつなぐ			
基本的方向	自治会などの各々の観光資源の管理者が連携し、統一感のある案内板の作成や散策路の整備など、各地域に点在する観光資源を一体的に体験できるような工夫を行っていきます。 また、町内の歴史をたどることができるガイドブックを活用した勉強会の開催などを通じて、各地で史跡の伝承を行っていくとともに、ボランティアガイドの育成に努めます。			
具体的な事業	大池公園の観光拠点化事業			
事業の概要	町内の関連施設とのネットワーク化を視野に入れながら、国内外からの誘客促進と観光振興はもとより、地域の活性化と新たな観光拠点づくりを目的とした施設整備を行う。			

評価 (Check)						
KPI・数値目標	評価指標	数値目標	→	現状	目標達成の可能性	
	観光拠点の設置	H31年度			H29.3月 末日 時点	○可 不可
		1箇所			0箇所	
阻害要因・奏効・し反た省点等	<ul style="list-style-type: none"> ・地方創生加速化交付金を活用し「スマートインターと一体化した地域拠点づくり事業」を実施した。住民ワークショップ等を行い、観光拠点として必要な施設整備の内容等を検討し「スマートインターと一体化した地域拠点づくり事業計画」を策定した。 ・整備にあたっては、住民に説明し理解を得て、かつ議会の同意を得ながら進めていく。 					

改善点・目標等 (Action)
<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度までは、「観光拠点の公設民営」を基本に施設史絵日の検討を行ってきたが、施設整備に係る町負担の軽減を図るため、平成29年度以降は「観光拠点の民設民営」を基本に考え、民間店舗の誘致による大池公園の目的地化を図る。 ・数値目標 平成33年4月 民間店舗誘致数 2店舗 雇用人数 20人

(紙面が足りない場合、別票を添付のこと)

まち・ひと・しごと創生 上毛町総合戦略 事業評価シート

			整理No.
部課名	開発交流推進課	記入者名	熊谷豊司

基本目標	2. 新しいひとの流れをつくる	施策名	(1) 移住・定住の促進
施策内容	⑤交流人口の増加		
基本的方向	本町をもっと知り、訪れてもらうため独自の資源を活用した交流人口の増加に向けた仕組みづくりを構築します。そのため、地域資源を活かした魅力づくりやスポーツ大会等を通じた交流人口の拡大を図り、本町の魅力を発信していきます。		
具体的な事業	大池公園開発事業の推進		
事業の概要	平成28年4月に東九州自動車道が全線開通し、北九州市や大分市など近隣都市へのアクセス時間が大幅に短縮され、利便性が高まった。このことは、工業、産業振興及び観光振興など様々な分野において町の潜在能力を向上させる要因となり、雇用の創出や定住促進に繋がることが期待される。そこで大池公園の開発は、町が単なる通過点にならないように、大池公園を目的地(観光拠点)となるような整備や町民憩いの場となる整備を行うことで、新たな人の流れを生み出し、交流人口の増加が図られる。		

評価 (Check)						
KPI・数値目標	評価指標	数値目標	→	現状	目標達成の可能性	
	来訪者入込数			H31年度	H29.3月 末日 時点	可
				300000人	3501人	不可
阻 害 要 因 効 し 反 た 省 点 等	<ul style="list-style-type: none"> ・大池公園の整備方針を①遊歩道再整備事業エリア(第1段階)、②高速道路連結部整備事業エリア(第2段階)、③検討整備事業エリア(第3段階)の3段階に整理し、整備を行っていく事にした。第2段階以降の整備は、住民に説明し理解を得て、かつ議会の同意を得ながら推進する。 ・地方創生加速化交付金を活用し「スマートインターと一体化した地域拠点づくり事業」を実施した。住民ワークショップ等を行い、町民と町外の方との交流の場としての施設機能等について検討を行った。 					

改善点・目標等 (Action)
<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度までは、「高速道路との連結」「観光拠点の公設民営」を基本に施設整備の検討を行ってきたが、施設整備に係る町負担の軽減を図るため、平成29年度以降は「観光拠点の民設民営」を基本に考え、民間店舗の誘致による大池公園の目的地化を図り交流人口増加に繋げていく。 ・数値目標 平成33年4月 転入者増加による社会増減の増加 35人

(紙面が足りない場合、別票を添付のこと)